



NIPPON BEARING

11月21日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【野球のホームベースは もともと四角形だった】

少年野球に高校野球・プロ野球から大リーグまで、日本人にとって野球は、子どもから大人まで幅広い世代に愛されているスポーツです。

野球の勝敗を決める上で、重要な役目を担っている4つの塁。

中でもホームベースは、試合の行方が大きく変わる重要な塁で、野球中継でもよく目にします。ホームベースと言えば、【五角形でゴム製】というのが今では当たり前ですが、昔は違う形・材質でした。

1869年にそれまでの円形から四角形になったホームベースは、石で出来た一辺12インチ(約30.5cm)の正方形でした。当時は、石製や鉄製など、硬いベースが主流でした。その後、1885年にゴム製のホームベースが誕生。現在と同じ、一辺17インチ(約43.2cm)の五角形に定められたのは、1900年のことです。

材質の変更は、選手の安全を考えると当然とも思えますが、形の変更は、審判の誤審を防ぐためであったとされています。

日本ベアリングには、常に妥協を許さず限界まで挑戦する技術力と、その技術力に基づく長年の加工技術の蓄積があります。更に、その技術を最大限発揮するための充実の加工設備を備えて、日々お客様の要望にお応えしています。

スピンドルシャフト・スピンドルユニット・ベアリングケース・主軸台等の高精度加工にもフレキシブルに対応。設計から製作まであらゆるサービスを提供し続けています。

長年愛されるもの・必要とされ続けるものには、自らの妥協を許さない姿勢と同時に、状況に合わせてフレキシブルに対応できる対応力が備わっているのでしょう。

変わり続けることを恐れない力こそ、普遍的なものを生み出すのかもしれない。

【企画・協力: 榎学研エデュケーショナル】